

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑬

本人と介助者が安心して眠れる環境づくり

自宅では普通の布団に寝ていて、褥瘡になりやすいということで、ご自宅で使用する褥瘡予防のためのベッドマットの購入についての相談を受け、来所にて検討いたしました。

◆支援要請機関：相談支援専門員 対応職種：SW、PT、OT、RE

ケースは13歳の脳性まひの男児です。身体状況は仙骨、腸骨稜、脊柱と骨吐出が強く、背臥位において、骨吐出部分での支持となり、左右の腸骨稜、仙骨に褥瘡が発症しやすい状況でした。オペで入院した病院のマットは、トラブルなく調子が良かった為、それを購入する予定でしたが、予定していたマットは自己負担金額が大きく、またその後施設短期入所で別のマットを試用し、購入に迷い、改めてベッドマットを検討することになりました。



ポジショニングを検討するにあたっては、臥位での姿勢評価を行った後、枕とクッション、タオルを使用し、圧が高まりやすく褥瘡になりやすい臀部の骨突出部周囲の服のよれに注意し、エアマットレスと静止型のマットレスでの圧を確認しました。結果、ポジショニングをしいエアマットレスと静止型のマットレスと比較すると、ほぼ同じような圧分散であった。そのため、負担金額が少ない静

止型のマットレスを購入することになり、予定していた金額より抑えることができました。現在も体に傷をつくることなく、本人も介助者もしっかりと眠れているようです。

家族にとって購入する際の負担金額はとても気になるところです。また、マットの選定やポジショニングにあたっては、概念的に行うのではなく、身体の特徴に合わせて、しっかりとした評価に基づいて行う必要がありますが、自宅で行うには限界があります。リハビリテーション専門相談では、身体に触って一緒に確認する過程を通じて、新たな気づきが生まれることがあります。地域でお困りの際には、お気軽にご相談ください。何かヒントが見つかるかもしれません。

(一木愛子)